

2005年9月17日（土）

韓国式でエコな染め物体験

講師：安昌娟（韓国環境運動連合 環境教育センター）

天然の素材で草木染を楽しんでもらおうと、韓国から乾燥した「くちなし（梔子）」の実を持参した安昌娟（アン・チャンヨン）さんと、くちなしで木綿のハンカチを染めるワークショップを行った。くちなしは白い花を咲かすが、実は黄色く固い。その固い実を潰すと中身は濃いオレンジで目が覚めるような明るさにびっくりする。

乾燥させた実をお湯をはった容器に入れて、とにかく潰す。両手でもむように、こすりつけるように潰す。少し甘いお茶のような不思議な臭いが辺りに充満する。手はすっかりオレンジ色に染まる。子どもたちは染まった手に驚いていたが、チャンヨンさんが「くちなしはお肌にもいいのよ」と言いながら頬にくちなしで線を書いた。マネをする子どもたち。



安昌娟さんがやり方を教えます

一度手を洗って、今度は木綿のハンカチを取り出して、ゴムでしばる。しばった場所が模様になるのだ。チャンヨンさんが何度も「しっかりしばってねー」と声をかける。そして、くちなしの実を潰してできた汁を濾してできた液体の中にそのハンカチを浸ける。

しばらく浸けたら、取り出してしばったゴムをはずす……すると？

黄色く染まったハンカチから、それぞれに個性的な模様が姿を現す。計画的に四隅に模様を作った大人の作品から、どこでもいいからまきつけて大小様々な模様が生まれた子どもの作品。どれも世界に1つだけの自分で染めたハンカチだ。



こんなに素敵なスカーフができました

しばらく日陰干しをして、各自お持ち帰りしてもらった。チャンヨンさんも説明してくれていたが、天然の素材は身体によく、アトピーの肌にも害がないそうだ。参加してくれた人たちが、黄色く染まったハンカチを見るたびに、自然の恵みの大切さを少しでも感じてもらえたら嬉しいなと思う